

「DXセレクション2025審査項目及び 審査のポイント」について

2024年11月

経済産業省 商務情報政策局

情報技術利用促進課

資料目次

1. 選択式項目①及び選択式項目②の内容について
2. 記述式項目の内容について
3. アンケート内の用語について
4. FAQ（よくある質問）

1. 選択式項目①及び選択式項目②の内容について

- デジタルガバナンス・コード3.0の（1）基本的事項の認定基準が選択式項目①、（2）望ましい方向性が選択式項目②にそれぞれ対応しております。

デジタルガバナンス・コード5つの柱	柱となる考え方
1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 企業は、データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化が自社にもたらす影響（リスク・機会）も踏まえて、経営ビジョン及び経営ビジョンの実現に向けたビジネスモデルを策定する。
2. DX戦略の策定	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 企業は、データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化も踏まえて目指すビジネスモデルを実現するための方策としてDX戦略を策定する。
3. DX戦略の推進	
3-1. 組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 企業は、DX戦略の推進に必要な体制を構築するとともに、外部組織との関係構築・協業も含め、組織設計・運営の在り方を定める。
3-2. デジタル人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 企業は、DX戦略の推進に必要なデジタル人材の育成・確保の方策を定める。
3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 企業は、DX戦略の推進に必要なITシステム環境の整備に向けたプロジェクトやマネジメント方策、利用する技術・標準・アーキテクチャ、運用、投資計画等を明確化する。 ▶ 経営者は、事業実施の前提となるサイバーセキュリティリスクに対して適切な対応を行う。
4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 企業は、DX戦略の達成度を測る指標を定め、指標に基づく成果についての自己評価を行う。 ▶ 経営者は、事業部門（担当）やITシステム部門（担当）等とも協力し、デジタル技術に係る動向や自社のITシステムの現状を踏まえた課題を把握・分析し、DX戦略の見直しに反映する。 ▶ 取締役会は、経営ビジョンやDX戦略の方向性等を示すにあたり、その役割・責務を適切に果たし、また、これらの実現に向けた経営者の取組を適切に監督する。
5. ステークホルダーとの対話	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 企業は、経営ビジョンやビジネスモデル、DX戦略、DX戦略の推進に必要な各方策、成果指標に基づく成果について、「価値創造ストーリー」として投資家をはじめとした適切なステークホルダーに示す。 ▶ 経営者は、DX戦略の実施に当たり、ステークホルダーへの情報発信を含め、リーダーシップを発揮する。

選択式項目①の構成について

- DX認定未取得企業は回答が必須の項目となります（DX認定企業は免除）。
- DX認定の取得に関する自己宣言では、2024年11月から2025年3月までの期間で申請予定月をご記入ください。

■ 選択式項目①の回答方法（DX認定の取得に関する自己宣言、推薦機関のコメント）

A	DX認定の取得に関する自己宣言
DX認定未取得企業については、DXセレクションへの応募にあたり、今後、DX認定を取得するという自己宣言が必須となります。以下の項目を記載ください。 ※記載がない場合、不備として審査の対象外となります。	
申請予定月	年 月申請済みもしくは申請見込み ※申請予定月は2024年11月から2025年3月までの期間で記載してください。
B	推薦機関のコメント
DX認定未取得企業については、DXセレクションへの応募にあたり関係機関からの推薦が必要です。他薦の場合は、推薦者にて本項目を記載してください。 ※記載がない場合、不備として審査の対象外となります。 ※推薦可能な機関については、応募要領をご参照ください。	
推薦機関	推薦機関がご記入ください。ただし、推薦コメントの内容は審査に影響しません。文字数制限はございませんが、Excelの1セルあたりの文字数制限は32,767文字ですので、その範囲内でご記載ください。
推薦機関メールアドレス	
推薦に至った理由	

プルタブから
選択

選択式項目①の構成について

- 選択式項目は全部で9問あります。
- 各設問において、自社に該当する選択肢を1つ選んでいただきますが、選択された項目に該当する場合は記述への回答もお願いします。

■ 選択式項目①の回答方法

1	経営ビジョン・ビジネスモデルの策定	
	<p>【参考：デジタルガバナンス・コードの柱となる考え方】 ・企業は、データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化が自社にもたらす影響（リスク・機会）も踏まえて、経営ビジョン及び経営ビジョンの実現に向けたビジネスモデルを策定する。</p> <p>【参考：DX認定基準】 ・データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化の影響も踏まえた経営ビジョン及びビジネスモデルの方向性を公表していること。</p>	
Q1	データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化の影響も踏まえた、経営ビジョン及びビジネスモデルの方向性を公表していますか。	
	1	データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化の影響も踏まえた、経営ビジョン及びビジネスモデルの方向性を公表している。
	2	データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化の影響も踏まえた、経営ビジョン及びビジネスモデルの方向性のうちいずれかを公表している。
	3	データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化の影響も踏まえた、経営ビジョン及びビジネスモデルの方向性の公表を準備中である。
	4	データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化の影響も踏まえた、経営ビジョン及びビジネスモデルの方向性を公表していない。
回答		← 回答欄（クリックして選択してください）
Q1 記述	Q1で1及び2を選択された場合は回答してください。 その内容が記載された公開文書の資料名を記入し、開示場所（URL等）も記入してください。 例：DX報告書（URL）5ページ、「DX推進について」対外公表資料（別紙1）20ページ	
回答		

プルタブから選択

選択された項目に該当する場合は、記述を記載ください（左記では1及び2を選択した場合、記述も記載）

選択式項目②の構成について

- 選択式項目は全部で45問あります。
- 各設問において、自社に該当する選択肢を1つ選んでいただきます。

■ 選択式項目②の回答方法

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定

【参考：デジタルガバナンス・コードの柱となる考え方】

企業は、データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化が自社にもたらす影響（リスク・機会）も踏まえて、経営ビジョン及び経営ビジョンの実現に向けたビジネスモデルを策定する。

1	既存ビジネスモデルの強化・改善
	既存ビジネスモデルの強みと弱みが明確化されており、その強化・改善にDX戦略や施策が大きく寄与していますか。
1	既存ビジネスモデルの強みと弱みが明確化されており、その強化・改善にDX戦略や施策が大きく寄与している
2	既存ビジネスモデルの強みと弱みが明確化されており、その強化・改善にDX戦略や施策が一定程度寄与している
3	既存ビジネスモデルの強みと弱みが明確化になっていない
回答	← 回答欄（クリックして選択してください）

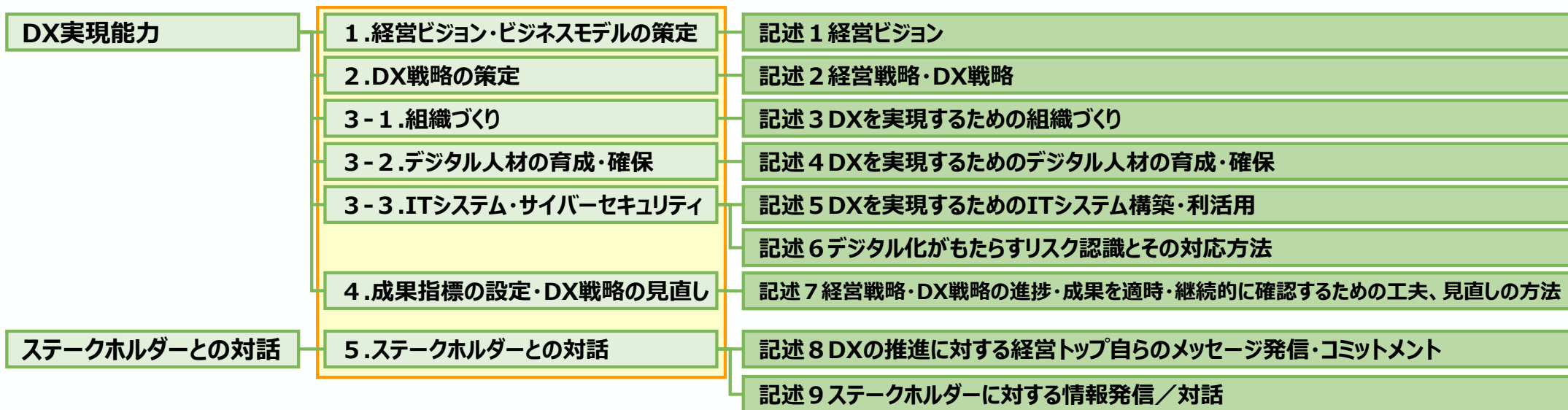
プルタブから選択

2. 記述式項目の内容について

- 記述式項目の設問は、以下の「DX実現能力」、「ステークホルダーへの開示」及び「企業価値貢献」の観点から行います。

■ デジタルガバナンス・コードの項目に対する評価

デジタルガバナンス・コード5つの柱



■ 取組プロジェクト等に対する評価

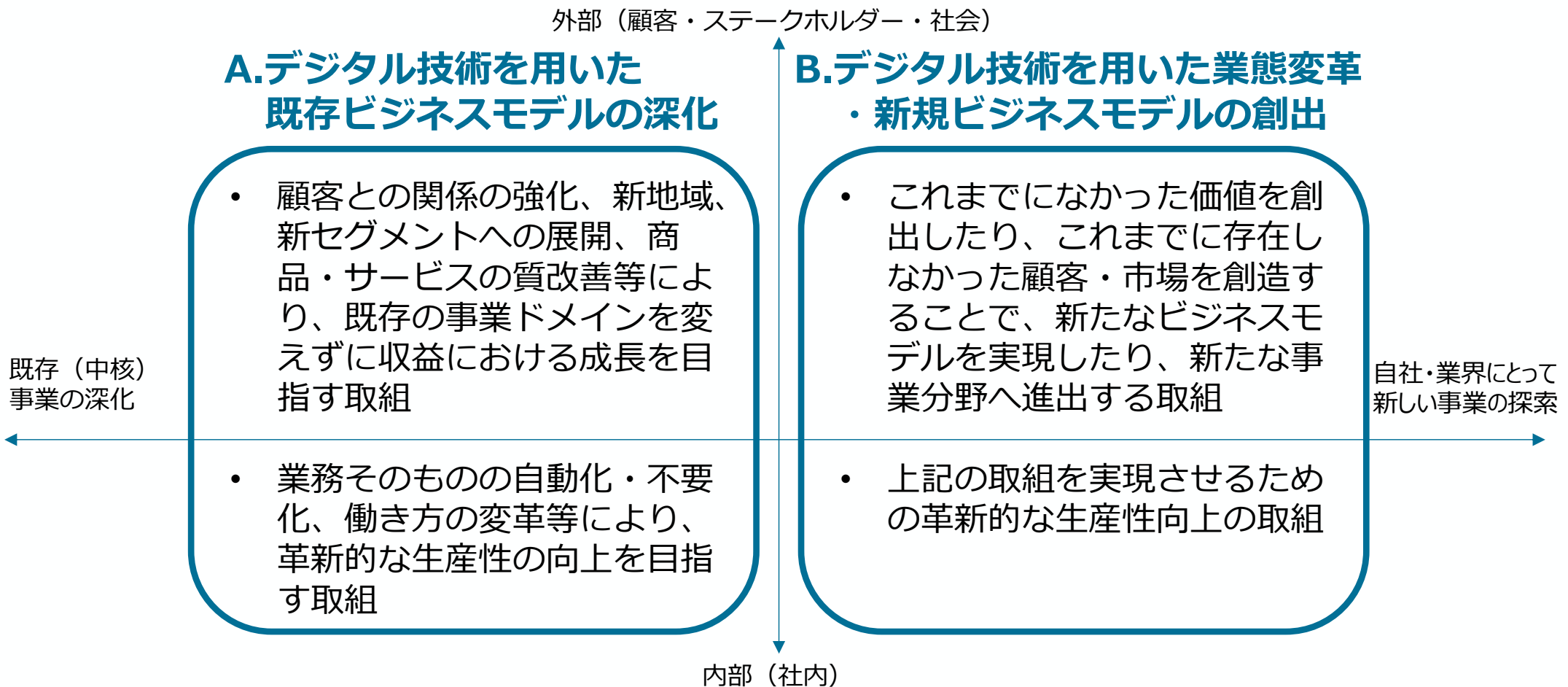
企業価値貢献

記述10デジタル技術を用いた既存ビジネスモデルの深化、業態変革・新規ビジネスモデルの創出

⇒①ビジネスモデルの深化、②取組の成果指標、③ビジネスとしての成果

【参考】 企業価値貢献についての考え方

- 企業価値貢献は、デジタル技術を用いた「既存ビジネスモデルの深化」および「業態変革・新規ビジネスモデルの創出」の2つの観点となります。



記述式項目の構成について

- 記述式項目の設問は、「デジタルガバナンス・コードの項目に対する評価（記述1～9）」と「取組プロジェクト等に対する評価（記述10）」の2種類があります。
- また、調査様式の冒頭に「自社のDX施策のアピールポイント」の欄を設けてますので、自社のDX推進の取組やDX施策の成果をアピールする場としてご活用ください。

■ 記述式項目の回答方法

記述1	経営ビジョン
1-1	経営ビジョンの資料名/URL ※URLは、必ずリンク先が参照されることをご確認ください。
回答	こちらの欄にご記載ください。 文字数制限はございませんが、Excelの1セルあたりの文字数制限は32,767文字ですので、その範囲内でご記載ください。
1-2	経営ビジョンの概要について
回答	回答する情報が非公表資料や紙資料でしか存在しない場合や、記述欄の回答枠内で説明が難しい場合は、回答フォーマットとは別に資料データ（PDF）をご提出いただくことも可能です。ただし、別途提出する資料データは、1ファイル最大10MB（PDFファイル形式のみ）が限度ですので、ご注意ください。10MBを超える場合は、分割して送付してください。また、ファイル名を「記述1-1_●●」などとし、どの項目に関連する資料かわかるようにしてください。

記述式項目の注意点について

- 記述式項目を回答するに当たっては、以下の点にご注意いただいた上で記載をお願いします。

- 自社の取組を説明する際は、**専門用語や技術的な用語の羅列は避け、ステークホルダーに説明することを意識したわかりやすい内容**でご記載ください。
- **冗長でなく簡潔な記述**を心掛け、**同様の記述を複数の場所で繰り返すことは避けてください**。
- 自社の取組の実績等を記載する際は、可能な限り定性的な説明ではなく、**取組を実施した年月日や数字等の定量的なデータ**を用いてご説明ください。
- **URLを記載する際は、必ずリンク先が参照できることをご確認ください**。リンク切れが多発しております。確認できない場合、審査に影響する場合がありますのでご注意ください。

【参考】記述式項目の審査のポイント（DX実現能力）

項目	着眼点
記述1 経営ビジョン	<ul style="list-style-type: none">データ活用やデジタル技術の進化による社会及び競争環境の変化が自社にもたらす影響（リスク・機会）も踏まえ、経営方針および経営計画（中期経営計画・統合報告書等）において、DXの推進に向けた経営ビジョンを策定しているビジネスモデルの変革が、経営方針転換やグローバル展開等に迅速に対応できるものとなっている
記述2 経営戦略・DX戦略	<ul style="list-style-type: none">経営者自らが主体的に検討を行い、経営ビジョンを実現する変革シナリオとして、具体的なDX戦略が構築できている経営陣がデータを様々な部門で価値を生み出すことができる重要な資産の一つとして認識している企業は、社会の状況変化や課題を迅速に把握・予測し、柔軟に対応するために、自社の保有データを発掘・整理・管理する能力を高めているデータに基づく判断を心掛けるなど、経営陣が、目指すビジネスモデル実現に向けてデータを活用しているサプライチェーン内の取引先や多様な企業とのデータ連携を行うとともに、データガバナンスに関する法令やガイドライン等に従っているDX推進のための予算が他のIT予算と別で管理されており、DX推進のための予算として一定の金額または一定の比率が確保されている経営者が最新のデジタル技術や新たな活用事例を、自社のDX戦略の推進に活かしている
記述3 DXを実現するための組織づくり	<ul style="list-style-type: none">外部リソースの活用を含め、知見・経験・スキル・アイデアを獲得するケイパビリティ（組織能力）を有し、ケイパビリティを活かしながら、事業化に向かった動きができているDX戦略推進のために各人（経営者から現場まで）が主体的に動けるような役割と権限が規定されている組織カルチャーの変革への取組として、新しい挑戦を促すとともに、継続的にかつ積極的に挑戦していきこうとするマインドセット醸成を目指した活動を支援する制度、仕組みが構築されているDX推進部署の責任者が経営者と定期的にコミュニケーションを行うとともに、経営会議等の一員として参加するなど、経営の意思決定に対して一定の権限を持っている

【参考】記述式項目の審査のポイント（DX実現能力）

項目	着眼点
記述4 DXを実現するためのデジタル人材の育成・確保 (※1)	<ul style="list-style-type: none">経営ビジョンと人材戦略を連動させた上で、DX戦略の推進に必要な人材に求めるスキルについて、デジタルスキル標準を参照した上で明確化し、社員のスキル可視化の取組が行われている経営者を含めた役員や管理職のDXに対する意識を改革するとともに、役員や管理職が積極的に社員のデジタル人材育成に関する取組を推進している経営者をはじめとした全社員のデジタル・リテラシー向上のため、デジタル技術を抵抗なく活用し、自らの業務を変革していくことを支援する、リスキリングやリカレント教育などの仕組みがある生成AI等の最新技術の動向も踏まえつつ、DX推進を支える人材として、どのような人材が必要か、が明確になっており、確保のための取組を実施している（計画的な育成、中途採用、外部アドバイザー・パートナーの活用、外部からの出向、事業部門・IT担当部門間の人事異動等）デジタルに関する専門知識を身につけた社員が、その知識の活用や試験・資格をはじめとしたスキル証明により適性評価・処遇される人事制度や、より実践的なスキルを身につけられるような人材配置の仕組みがあるスキルを評価する人事制度をはじめ、社員の希望に応じた人事異動や学習機会の提供、ロールモデルの提示といった自律的なキャリア形成支援の取組が行われている
記述5 DXを実現するためのITシステム構築・利活用	<ul style="list-style-type: none">全社のITシステムがDX戦略実現の足かせとならないように、定期的にビジネス環境や利用状況を踏まえ、ITシステムやデータ等の情報資産の現状を分析・評価し、課題を把握できている上記で実施した分析・評価の結果を受け、技術的負債（レガシーシステム）が発生しないよう、体制（組織や役割分担）を整え、必要な対策を実施できている（再レガシー化を回避する仕組みが確立されている）ITシステムの全社最適を目指し、全社のデータ整合性を確保するとともに、事業部単位での個別最適による複雑化・ブラックボックス化を回避するための仕組みがあるビジネス環境の変化に迅速に対応できるよう、既存のITシステムおよびデータが、新たに導入する最新デジタル技術とスムーズかつ短期間に連携できるとともに、既存データも活用し、経営状況や事業の運営状況を把握できるITシステムがある

(※1) デジタル (D) に関する知識を備えていることはもちろん、企業変革 (X) を先導できるような人材の育成・確保についても、どのように取り組み、成果が出ているかを評価します。

【参考】記述式項目の審査のポイント（DX実現能力）

項目	着眼点
記述6 デジタル化がもたらすリスク認識とその対応方法	<ul style="list-style-type: none">• 経営者がサイバーセキュリティリスクを経営リスクの一つとして認識し、CISO等の責任者を任命するなど管理体制を構築するとともに、サイバーセキュリティ対策のためのリソース（予算、人材）を確保している• サイバーセキュリティリスクとして守るべき情報を特定し、リスクに対応するための計画（システムの・人的）を策定するとともに、防御のための仕組み・体制を構築している• 自社のサイバーセキュリティリスクを評価するために、システム監査やセキュリティ監査など第三者監査を実施している• サイバーセキュリティリスクに対応できる体制の構築に向けた取組として、情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）の取得や外部人材の活用、社員への教育等を企業として進めている• サイバー攻撃による被害を受けた場合の事業継続計画（BCP）を策定するとともに、経営陣も含めて緊急対応に関する演習・訓練を実施している• サプライチェーンの保護に向けて、取引先や調達するITサービス等提供事業者のサイバーセキュリティ対策の強化を促しつつ、サプライチェーン全体での付加価値の向上に取り組んでいる
記述7 経営戦略・DX戦略の進捗・成果を適時・継続的に確認するための工夫、見直しの方法	<ul style="list-style-type: none">• 経営・事業レベルのDX戦略の進捗や成果把握を即座に行うことができる• 経営者が事業部門やITシステム部門等と協力しながら、デジタル技術に係る動向や自社のITシステムの現状を踏まえた課題を把握・分析し、DX戦略の見直しに活用している• 企業価値向上のためのDX推進に関して、取締役会・経営会議で報告・議論されている

【参考】記述式項目の審査のポイント（ステークホルダーとの対話）

項目	着眼点
記述8 DXの推進に対する経営トップ自らのメッセージ発信・コミットメント	<ul style="list-style-type: none">• 経営者が自身の言葉で経営ビジョンや企業価値向上のためのDX実現のメッセージをステークホルダーに対して、経営方針・経営計画やメディア等で発信している
記述9 投資家等のステークホルダーに対する情報発信／対話	<ul style="list-style-type: none">• ステークホルダーに対し、DX戦略、その実行上の課題、具体的施策について発信し、対話を行っている• KPIやそれを達成するための具体的な取組をステークホルダーに開示している

【参考】記述式項目の審査のポイント（企業価値貢献）

項目	着眼点
記述10 デジタル技術を用いた既存ビジネスモデルの深化、業態変革・新規ビジネスモデルの創出	
ビジネスモデルの深化	<ul style="list-style-type: none">既存ビジネスモデルの強みと弱みが明確化されており、その強化・改善にDX戦略や施策が大きく寄与している多様な主体とデジタル技術でつながり、データや知恵などを共有することによって、企業間連携を行い、革新的な価値を創造しているDX推進のための意思決定において、DXに投じる資金をコストではなく経営にとって必須な投資として位置付け、定量的なリターンの大きさやその確度を求めすぎず、必要な挑戦を促している
取組の成果指標	<ul style="list-style-type: none">DX戦略・施策の達成度は、実施している全ての取組に定量・定性問わず、KPI（重要な成果指標）を設定し、評価されている
ビジネスとしての成果（収益貢献、取引先への影響）	<ul style="list-style-type: none">KPIとKGI（最終財務成果指標）を連携させており、実際に、財務成果をあげている

（※2）「新規ビジネスモデル等の創出」について、毎年新しい事業を記載すれば評価が高くなるというわけではありません。DXの取組はある程度時間を要するものであることを踏まえ、新規ビジネスモデル等の創出に向けた継続的な仕組みづくりや、取組の実施状況及びその効果、新規ビジネスモデル等の創出に関する前年度からの進捗や成長についても評価の対象といたします。

3. アンケート内の用語について

- アンケート内の用語は以下のとおりです。

ビジネスモデル	事業を通して顧客や社会に価値を提供し、持続的な企業価値につなげる仕組み（有形・無形の経営資源を投入し、製品やサービスをつくり、その付加価値に見合った価格で顧客に提供する一連の流れ）
戦略	ビジネスモデルを実現する方策
デジタルトランスフォーメーション（DX）	企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること
デジタル技術	本調査では特に、生成AI、IoT、ビッグデータ、ロボット、ブロックチェーン等の新技術を想定している

4. FAQ ①応募用紙に関して

- **DXセレクションに選定されるためには、応募用紙の他に何か申請等をする必要があるのか？**
 - 特に必要作業等はありません。ただし、応募用紙の添付資料として補足資料を添付することは可能です。その場合は、PDFファイル形式のみ合計で最大10MBまで送信可能です。ファイルサイズを超える場合は、分割して事務局へ送付してください。
- **応募用紙の提出後に回答内容を変更したい。また、資料を追加で提出したい**
 - 応募先のメールアドレス（dxselection.2025@jp.ey.com）へ、差し替え資料の提出をお願いします。ただし、受付は募集締切日までとします。
- **提出期限までに推薦を受けられない可能性があるが応募は可能か？**
 - 原則、受付は募集締切日までですので、余裕をもって推薦を受けるようにしてください。
- **応募用紙を提出したが、事務局に届いているか確認したい**
 - 応募用紙を受領後、事務局から送付元メールアドレスへ受領の連絡をいたします。万が一、受領連絡が届かない場合は、事務局までお問い合わせください。
- **応募用紙における選択式項目①、選択式項目②、記述式項目、財務指標の配点を知りたい**
 - DXセレクション選定の配点は非公開です。ご了承ください。
- **記述式項目の各回答欄に文字数制限はあるか？**
 - 事務局から文字制限はございませんが、Excelの1セルあたりの文字数制限は32,767文字ですので、その範囲内でご記載ください。
 - 図表その他資料を用いて説明を補足される場合（別添PDFで補足される場合）は、資料をコンパクトにおまとめいただくとともに、エクセル上の回答欄にも補足資料の該当箇所をわかりやすくご記載ください。
例：「詳細については資料2のp8を参照」等

4. FAQ ②その他

■ 回答した内容は外部に公表されることがあるのか？

- ご回答いただいた内容について、許可なく公表することはありません。ご提出いただいた内容についての秘密を厳守します。特に、記述式項目において「社外秘のため記載不能」というご回答をいただくことがありますが、情報の取り扱いは厳重に管理し、事務局及び有識者で構成される検討委員以外の目に触れることはありませんので、ぜひ可能な範囲で積極的なご回答をお願いいたします。
- DXセレクションの選定結果の公表においては、選定された企業の取組内容等を中心に公表させていただく可能性がございます。公表の前に、必ず内容について確認しますので、窓口の方のご連絡先を間違いなくご記入ください。

■ 回答した内容はどの範囲まで開示されるのか？

- ご回答いただいた内容について、許可なく公表することはありません。
- ご回答いただいた情報は、事務局であるEY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社が管理します。また、DXセレクションを選定する中堅・中小企業等のDX促進に向けた検討会及び事務局（経済産業省、EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社）が、DXセレクション2025選定のための評価・分析に使用します。